



今月のことば

## Words of the Month

# 3年ぶりのパテント杯

日本弁理士会副会長

中野 圭二

令和4年度日本弁理士会副会長の中野圭二です。選挙管理委員会、処分前公表審議委員会、バイオ・ライフサイエンス委員会、不正競争防止法委員会、農林水産知財対応委員会、中国会を担当させていただいております。

この夏3年ぶりに開催されたパテント杯（パテント杯争奪野球大会）に参加しました。パテント杯は、特許庁各部署及び工業所有権関係事業所並びに、参加各チーム及び野球選手相互の親睦を図ることを目的として、年一回夏期に開催されています（パテント杯争奪野球大会規約2条、3条）。一昨年と昨年は、新型コロナウイルスの流行により、選手及び参加者相互間の交流を深めることが困難である等の事情を考慮して開催されなかったため、3年ぶりの開催となりました。パテント杯には、例年、特許事務所や弁理士の有志団体からも多くのチームが参加しています。第59回となる今年のパテント杯には、特許庁から審査部を中心に8チーム、庁外から特許事務所・法律事務所の8チームを含む16チーム、計24チームが参加しました。

私が主将を務めている野球チームは、弁理士の有志団体に所属するチームで、第50回大会から毎年パテント杯に参加しています。第57回大会と第58回大会は開催されませんでしたので、今大会で8回目の参加となります。このチームは、パテント杯の趣旨に則り、どちらかと言うと、試合の勝敗より、試合後の親睦をメインとしたチームです。でも、50を過ぎた私に先発投手として出場の機会を与えてくれるのですから（自分でオーダーを組んでいるのですが）、ある程度は期待に応えなければなりません。

この3年間はコロナの影響により、グラウンド

の貸し出しが中止されたり、貸し出される面数も制限されたりして、チームメンバーが集まって野球の練習をする機会も少なくなっていました。また、日常の業務でも出張はなくなり、会議も全てオンラインで開催されるようになったため、パソコンの前に一日中座りっぱなしの生活が続きました。「コロナ太り」という言葉をよく耳にするように、少しでも油断をすると直ぐに体がなまってしまいます。私は、コロナ禍前から運動不足にならないように、パーソナルトレーナーを付けて強制的にトレーニングを行う環境をつくっていましたが、担当していたトレーナーはオンライン指導にも対応していましたので、自宅やオフィスに居ながら安心してトレーニング指導を受けることができました。パーソナルトレーナーを付ける前は、24時間年中無休のジムに通っていたのですが、いつでも行けると思うと次第に足が遠ざかり、会費だけを払っているのは勿体ないのでやめてしまいました。パーソナルトレーナーを付けてからは、予約を入れるので定期的にトレーニングを行うようになり、自分でトレーニングをしていたときには避けていたメニューも容赦なく組み込まれますので、バランスよくトレーニングを行うことができるようになりました。オンラインによるトレーニングの場合、自宅やオフィスでは、マシンやウェイトを使ったトレーニングはできませんが、自重を使ったトレーニングメニューも数多く用意されていて、レベルや目的に合ったメニューを組んでもらえます。初めは、自重だけのトレーニングで効果あるの？と思っていましたが、画面越しに姿勢等をチェックしてもらい、正しい姿勢でトレーニングをすると、思っていた以上の効果がありました。こうして、この3年間、

体のパフォーマンス維持に努めてきました。

新型コロナウイルスの第7波による感染拡大が続く中でしたが、公益財団法人全日本軟式野球連盟の感染予防対策ガイドラインに則り、しっかりとした感染対策を行って、パテント杯の開幕を迎えることができました。大会実行委員を始め大会の運営に携わった皆様に、心から感謝申し上げます。

コロナ禍における試合では、試合開始前の本塁整列がお互いのベンチ前に整列し、握手もできないことに少し違和感を覚えながらも、一回戦の試合が始まりました。3年ぶりのマウンドは、ファーストストライクをとるまで、打者に当ててしまわないかなど不安で緊張していました。でも、体のパフォーマンスを維持していた成果ができたのか、以前よりも思ったところに配球することができ、予定した投球回数を無失点で切り抜けることができました。努力は必ず報われることを実感しました。ハイタッチはエアタッチにするなど、感染対策には配慮しながらも3年ぶりのパテント杯を楽しむことができました。コロナ禍でデジタル化など進歩したところもありますが、チーム制のスポーツは人が集まることができないと試合を行えないので、新型コロナウイルスの流行が早く収束することを願っています。

日本弁理士会は、新型コロナウイルスの流行により、これまで各種行事やイベントを自粛してきましたが、7月1日の弁理士の日には、新型コロナウイルス感染症対策を施し、リアルでの出席者を限定して記念式典をハイブリッド形式にて開催しました。まだ、新型コロナウイルスの流行の収束が見通せない状況ですので、一気にコロナ以前の状況に戻すことはできませんが、しっかりとし

た感染対策を講じて会員や事務局の安全を確保できるものから戻していきたいと思います。

オンライン会議は、移動が不要でどこからでも参加できるという便利さがありますが、参加者の表情や雰囲気をつかみづらいつか、こそこそ話できないといったデメリットもあります。少人数の会議ではデメリットもあまり気になりませんが、大人数の会議になるとデメリットが目立つようになります。たまには委員会をリアル開催したいという要望はよく聞きますし、その気持ちはよくわかります。一方で、地域会からテレビ会議で参加されていた先生からは、全員オンラインの方が話に入りやすいという話も聞きます。これからは、オンラインとリアルそれぞれのメリットを活かしながら、上手く組み合わせていきたいと思

います。ウェビナによる研修も、移動が不要でどこからでも受講できるという便利さがありますが、受講生同士は見えないために、受講生同士の交流ができないのは不便だなと感じています。特に、地域会が開催する研修では、交流できないことによって地域会の活動に参加してくれる会員を探すのに苦労しているという話をよく聞きます。研修も、オンラインとリアルハイブリッド開催ができるように、新型コロナウイルスの流行が早く収束することを願っています。

最後になりましたが、大変多くの会員の皆様にご支援ご助力いただきこの3か月あまりの日々を過ごしてまいりました。この場をお借り致しまして心より御礼申し上げます。

引き続き杉村会長をはじめとする令和4年度の執行部にお力添えを頂きたく、どうぞよろしくお願